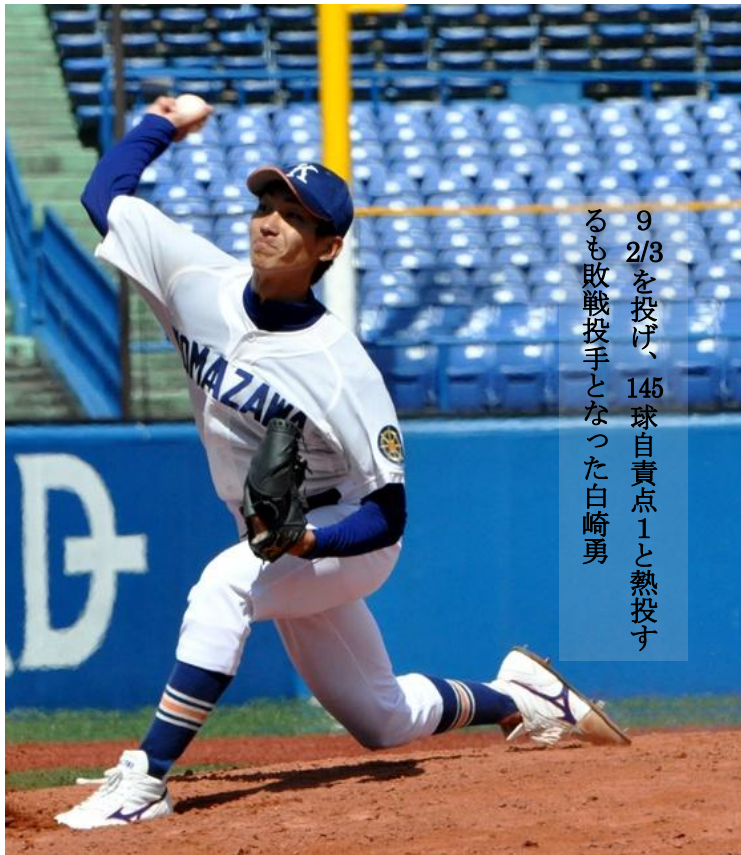


1回戦
 11年秋季リーグ
 第2週・9月13日
 0勝1敗



9/23を投げ、145球自責点1と熱投するも敗戦投手となった白崎勇



初回、勝ち越しの中犠飛を放った戸柱

エース145球の熱投も報われず...

青学大3-2駒大

青学大	100	001	000	1	3
駒大	200	000	000	0	2



二桁三振と不甲斐ない結果に終わった打線【左】と6回、痛恨の失策を犯した中谷【左】



【駒大】	打安点
④小林	310
⑧嘉数駿	300
⑥岡	300
⑤白崎浩	300
DH柴田	411
②戸柱	201
⑨江越谷	400
⑦中山	200
7山下川	100
PR砂川	000
③増本	300
PH福山	100
計	2922

回	打安責
●白崎勇	92/3 3891
井口	1/3 210

開幕カードで既に勝ち点を1つ落とした駒大。次こそはと挑んだ青学大戦だったが、苦しい黒星スタートとなった。

先発マウンドに上がったのは、前カード「失点7」と荒れた、エース・白崎勇氣(営4)。

この日も初回、先頭打者に中前安打を許すと、味方の失策も絡み、早々と先制点を奪われるが、東洋大戦後「とりあえず多く投げ込んだ」成果が実り、初回以降は安定した投球を見せた。その裏即座に逆転に成功し、1点リードで迎えた6回、

左翼方向に上がった打球を中谷泰周(市3)が落球し試合は振り出しに。そのまま延長戦に突入した10回、一死満塁の危機に「絶対に抑えてやる」という気持ちでバトンを受け継いだ二番手・井口拓皓(経3)であつたが、決勝打となる中前安打を浴びてしまふ。打線も「今日は野手が足を引く張った」と捕手の戸柱恭孝(現3)が振り返るように初回以降無安打、二桁三振と振るわず粘る投手陣を援護できなかったことを悔やんだ。

試合後「東都は本当に苦しい」と語った小椋正博監督の言葉が今日の試合の全てを物語るような結果だった。次戦のカギは打撃陣が握っている。エースの復調に、その打線の奮起が加われば「勝利」の二文字はおのずと見えてくるはずだ。

写真Ⅱ橋本圭史、池田初、服部萌香、文Ⅱ松井智子